

未来<sup>眼</sup>とうほく 第5回

## オール東北の観点から、真の復興を目指そう

平成21年2月に山形県知事に就任以来、「心の通う温かい県政の推進」を基本姿勢として取り組まれてきた吉村知事。東日本大震災により、壊滅的打撃を受けた東北地域の早急な復旧・復興対策が望まれる中、これまでの山形県政を振り返るとともに、今後の山形や東北のあるべき姿についてうかがった。

## 大震災で交通網の不備を実感

●町田 本日は東日本大震災への対応をはじめ、いろいろな話をうかがいたいと思います。まず、私自身山形から秋田に居を移して改めて感じることは、山形と秋田とは共通するところが非常に多いということです。昔は、山

形・秋田が出羽の国で一つの国でしたし、秋田も山形同様、農業が基盤です。

●吉村 この度の東日本大震災では、東北6県の中で山形と秋田の2県だけが直接的な被災県ではありませんでしたが、そこも共通です。

●町田 日本海に面している点も同じですね。決定的に違うのは、秋田県が秋田市一極集中なのに対し、山形県は、庄内、最上、村山、置賜と多極分散であることです。

●吉村 そうですね。山形県は大きく4ブロックです。

●町田 これまでの日本は東京一極集中でしたが、そのデメリットが出てきています。これからは、日本も山形と同じように多極分散化が必要です。そして地方をいかに活性化させるかが、これからの日本再生のポイントです。

●吉村 東北も多くが太平洋側に集中していました。具体的に言えば、山形県内で消費されるガソリン燃料の8割が塩釜港から入っていき、それがこの震災でストップし、本県は石油燃料がまわらなくなりました。これからは太平洋側と日本海側両方が補完する形で、しっかりインフラを整備しなくてはなりません。

●町田 その通りですね。それから、21世紀はアジアの時代と言われています。リスク分散の観点はもちろん、新しい時代への対応が必要なのに、まだ高規格道路もできていない状況です。

●吉村 今回、本当に実感しました。新潟・酒田・秋田から物資を運ぼうとしても、横軸の道路が整備されていません。

●町田 一極集中による弊害が出てきたのは、国家戦略を持たなかった政治家の責任だと私は考えています。今、中国・東南アジアから北米への航路はすべて日本海、津軽海峡を通過しており、日本海側はラッシュです。太平洋側を通ると2日間余計に時間がかかるためです。そんな中、ハブ港はプサンにとられてしまいました。新潟港・酒田港・秋田港がそれぞれ相互補完をして、太平洋側からの荷物を含めて全部集まるようにしますと、プサンに十分対抗できます。

●吉村 江戸時代には西の堺、東の酒田ということで、日本海側がすごく発達していました。明治以降、アメリカとの交流が盛んとなり、太平洋側が発達したのだと思いますが、これからは中国などアジアとの貿易になってきていますから、日本海側も戦略的に発展させる必要がありますね。

## 将来を見据えた真の復興を

●町田 大震災を受けて、東北をどう再生するのか、単なる復旧・復興ではなくて、東北一円をモデルにして、未来先取り型の復興をしていくべきだと思います。

●吉村 そのことが本当に大事です。ただ、今は、被災県の復旧・復興が第一なので、将来を見据えた復興について、なかなか意見を出しにくいこともあります。

●町田 この前の日経新聞に書かれていましたが、東北全体がこれまで、人材・食料・電力の供給を通じ、実は東京一極集中の非常に大きな支えになっていたのだと。大震災により、東北全体としてとらえますと、直接被害がないところでも間接的な被害を非常に受けています。これから東北全体をもう1度見直していくことが非常に大事なので、そういう遠慮は不要だと思っています。

●吉村 そうですね。今のお話にもありましたが、東北はこれまで日本の食料供給基地となってきました。今後もそれを堅持していきたいと思います。また、ものづくりの拠点としても期待されていることをしっかり受け止め、役割を担っていきたいという思いもあります。“おいしい農産物を作ろうと、地道ですが熱心に取り組む”という精神そのものが、ものづくりにも生きていてと思っています。

●町田 トヨタの「改善」という手法がありますが、あれは農耕民族から出てきたやり方だと思います。同じことを繰り返していく中で、少しずつ、いいものにしていくという「改善」が、実はトヨタを支えています。東北人の取り組み姿勢はこれからの日本で、研究開発の大事な基地になり得ると思います。

それから先ほどのお話にもありましたが、地域全体が活性化するような、交通インフラの再整備が極めて大事です。再整備によって、災害時対応だけでなく、医療の救急対策にもなり、さらには経済の規模も広がっていくと考えます。ぜひ、東北が一つの大きな経済圏になるような方向へと展開していただけたら、と思います。

●吉村 震災という大不幸を、東北が成長するチャンスに変えるということですね。本当に同感です。

## 農業には雇用吸収力あり

●吉村 本県には、直近の数字で6,492人（6月30日現在）が避難されてきています。8割を超える方が福島県の方です。県内各地に開設されている避難所をまわってお話を聞きしましたが、「福島に帰りたい」、「子どもの教育が心配」、「とにかく働きたい、収入を得たい」という3つの声が大きかったです。まずは帰れるようになることが第一かと思いますが、長期的な視点でやっていかなければなりません。教育については、短期でも長期でも何としても子どもたちを受け入れたいと考えます。子どもは社会全体で育てるものだという観点に立って、教育委員会も柔軟に対応して頑張ってくれています。あとはやはり雇用ですね。

●町田 そうですね。でも避難者に最初から仕事を用意するのは難しいので、むしろ、受け入れてから考えて十分だという感じがします。日本人は昭和初期にブラジルへ、昭和10年代には満州へとそれぞれ夢を描いて多くの方が行かれたわけですが、その時に現地で雇用の準備ができていたかという、そんなことはない



吉村美栄子（よしむら・みえこ）

1951年、山形県生まれ。お茶の水女子大学教育学部卒業後、株式会社リクルート勤務。77年に帰郷した後、行政書士の資格を取得。98年から2006年まで山形県教育委員を務める。2000年に自宅にて行政書士開業。山形市個人情報保護制度運営審議会委員、山形県入札監視委員会委員を歴任し、09年2月に第50代山形県知事に就任。



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年、秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長。09年10月より、フィデア・ホールディングス取締役会議長・北都銀行取締役会長。11年6月より荘内銀行取締役相談役兼務。



はずです。また、農業というのはそもそも雇用吸収力がありますし、短期間で結論を出さなければならないものではありません。農業とはそういう強みを持っているのではないのでしょうか。

●吉村 なるほど、そうですね。

●町田 そう言いますのは、農業がやや内向きになっていると思うからです。日本国内は、人口減少、高齢化で元気がないですが、地球レベルでは人口爆発が起っています。食料資源などあらゆる資源が不足しつつあります。ですから、決して農業は衰退産業ではないはずですよ。

●吉村 同感です。農業は成長産業です。

●町田 日本の食料は、安全・安心のブランド食品ですから、可能性のある分野だと思います。

### 農林水産業再生に向け、高い目標に挑戦

●町田 県政運営の5本柱の一つに農林水産業の再生がありますが、農業を起点とする産出額を2,000億円から3,000億円にするという目標を掲げられています。これは大変前向きな、良いポリシーですね。

●吉村 ありがとうございます。「3,000億円を目指す」と言ったことで、県内の農林水産業者の方々が元気を出してくださって、大蔵村はトマト、戸沢村でパプリカ、最上町ではアスパラガス、そして金山町はニラ、と意欲的になっています。その土地で生産して生きていけるということが必要で、各地で元気が出ていることが何よりも成果ではないかと思っています。でも、「少し目標が高すぎるので、例えば2,500億円に修正し

たらいいのでは」という声もありますが、高い目標に向かっていくことが大事だと思います。

●町田 われわれ企業経営でも同じです。安易に達成できるような目標は目標ではない、やはり、挑戦する目標でないといけないですから。厳しいけれども頑張るのが本来の目標です。大変すばらしいことです。

●吉村 民間の優秀な経営者の方からそう言うっていただくと、すごく勇気が出てきます。

### コミュニティで取り組む農業

●吉村 私の故郷は大江町ですが、「十八才」という地名のところがああります。そこに農産物の加工所があり、21人の女性たちが働いています。首都圏の生協と契約していて、地元産野菜を使った漬物などの加工品を1年中出荷しており、評判も良いようです。雇用の面では、例えばお姑さんがリタイヤしたら、その家のお嫁さんが就職するなどしてうまくいっているとのこと。1年で一番忙しいのは笹まきの時期で、6月の笹の新しい葉が出る時期には、高齢者の方も含めて村中を動員し、山に笹の葉を取りに行くそうです。これはひとつのいいやり方だなと思っています。

●町田 そうですね。昔は田植えとか稲刈りは村を挙げてやっていました。しかし、今は孤独な作業です。1人で耕運機を動かして…。

●吉村 家単位だけの作業になってしまいました。

●町田 十八才地域のように、コミュニティを意識したやり方は値打ちがありそうですね。

●吉村 そうだと思います。そして、販売の方までしっかりと道をつけると言いますか、6次産業化が大事ですね。県内各地でこういう動きが起きたら、本当にいい雇用対策にもなっていくと思います。

### 交流によって人材が育つ

●町田 知事は、県政運営の5本柱の一つとして、人づくり・教育にも非常に力を入れておられます。

●吉村 やはり人づくりというのは、すべての社会の基礎だと思います。山形県では全国に先駆けて、平成14年度から少人数学級編制を導入しまして、今年度、中学3年まで完全実施しました。一人一人の子どもにきめ細かく指導できる体制をつくり、能力を引き出すことが教育の使命だと思います。明日を担う人材の育成が一番大事なことです。



一人一人の個性を大切に学ぶ少人数学級による授業

●町田 そうですね。また、知事は青年交流事業も推進されておられます。

●吉村 就任した年の10月に青年交流事業を始めました。天童にある青年の家という施設を拠点にして、県内の青年たちが集い、交流を深めて人的ネットワークをつくり、刺激しあいながら未来をつくっていかうという取り組みです。船上交流というものも行っており、昨年度は船で名古屋に行きました。そして、つや姫など県産品をPRし、現地の青年たちと交流をしましたが、大変好評でした。視野が広がることで成長しますので、とても大事なことだと思います。

●町田 おっしゃる通りです。実は、荘内銀行と北都銀行の経営統合で、他と交じり合うことの効果が非常に大きいということを実感しました。役員はもちろん、本部の若い行員も出向しあいましたが、そういった中で自分たちの強みと弱みを自覚できます。それぞれ文化が違いますから、多少フリクションは起こします。しかし、「言わなくてもわかる」という関係性は居心地がいいかもしれませんが、発展性はありません。特に感受性の強い若者の交流は、効果が大きいのではないのでしょうか。

●吉村 今後も継続して青年交流事業を行っていきたいと思います。

### 知恵や文化を継承していこう

●吉村 新潟中越地震の際にテレビで見えていたら、電気が使えないので火をおこしてご飯を炊いていました。それがきっかけでわが家でも火鉢で炭をおこしたり、七輪を買ったりと、不測の事態に備えたところ。炭おこしも灰が舞い上がってしまったりと一苦労

ですが、お湯が沸くと家族が集まってきてお茶飲みをするなど、結構楽しいものです。炭火でおこした鉄瓶のお湯は、柔らかくておいしいんですよ。

●町田 そうなんですか。

●吉村 私の母も炭おこしをしますが、私よりとても上手です。いろんな知識を持っていて、実は炭というのは赤い炭を中に、黒い炭を外側に置くとよいだとか、その時に教わりました。知恵を伝授する場面にもなります。

●町田 いいお話ですね。そういうお年寄りの知恵だとか文化の継承を、もっと意識しなければいけないと思います。

●吉村 知恵を伝授する場面をつくっていかないといけない時代なのかなと思います。今回の津波の後、東京で岩手県宮古市出身のタクシー運転手の方と話す機会がありました。岩手の実家では兄夫婦がお母さんと同居しており、そのお母さんが昭和何年かに経験した津波を覚えていたことから「裏山に登れ」と指示をしたそうです。そのおかげで家族全員が助かったと。経験というのはいざというときに力を発揮するものです。命を救うこともあり、伝えていかなければと感じましたね。

●町田 そうです。昔は「古い」というのは、むしろ、尊敬の意味があったのです。江戸時代には「家老」だとか。

●吉村 本当ですね。県政にも豊富な経験を持つ長寿の方の知恵を反映させようと、「知恵袋委員会」というのを設けています。本県は全国第5位の高齢県ですが、それを弱みとするのか、強みとするのかは、政策次第と言いますか、考え次第だと思っています。科学というのは学問として間違いなく積み上がってきていますが、それに比べて人間の知恵といったものは積み上がっていないのではないのでしょうか。そこが人類として一番不足しているところではないかなと思います。

●町田 同感です。賢くなっていなければいけないはずの人類が、大昔と同じように嫉妬したりしています。

●吉村 いろんなことをわかってきた頃にはこの世を去ってしまいますから、生まれた人はまたゼロから始めるのですよね。知恵の積み上げのようなことができればいいのですが。

●町田 人類はそういう賢さを、もっともっと積み上げていかなければいけないですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。



復興応援企画「がんばろう東北！」山形県のアンテナショップ「おいしい山形プラザ」前にて募金活動